

今月のことば

「えらい」
失敗しないのが
えらいのではない
失敗しても
再び立ちあがる人が
えらいのだと思いますヨ
波北 彰真

浄土真宗の僧侶、波北彰真著『人生のほほえみ—中学生はがき通信』より。失敗しても大丈夫。どう受けとめるか、どう向き合うかが大切なんだと応援してくれている気がします。

十月の同朋会

十月八日(第二十曜日)

午後一時から三時

勤行・住職・前任職法話

持ち物 勤行本・念珠

親鸞聖人の教えに触れる機会です。どなたでも参加できますのでどうぞお越しください。

境内の花々



(萩)

前任職法話

九月の掲示板の言葉に

「私の思いと現実のギャップ それを『苦』というのです」とありました。少し言葉を補いたと思います。ギャップはあくまでもギャップ。へだたりや食い違いともいうことができます。

『苦』とはそのへだたりを素直に受け容れられないところから生まれるのではないのでしょうか。あくまでも「私」が受けとめられないことが苦悩の原因になっていくのです。

私は欲生我国（我が国に生まれんと欲（おも）え）と願っています。「汝自身に帰れ。本当の自分（志願）を生きよ」と願われます。それを受けとめた私たちが願生彼国（彼の国に生れんと願います）。「本当の自分を生きたい。生ききたい。」と応えます。このことが南無阿彌陀仏のお念仏の教えです。

九月同朋会より

住職法話

お釈迦様の教えに「四苦」というものがあります。私たちに避けて通れない生・老・病・死（しようろうびようし）の四つの苦があるということです。この中でも生（生まれ、生きること）が「苦」だとはどういうことでしょうか。最近「親ガチャ」などという言葉がありますが私たちは生まれることも選べません。若い、病、死、そして生も私の思いで選ぶことができないことが「苦」となってくるのです。

親鸞聖人の残された和讃に「他化天の大魔王」という言葉が出てきます。これは他化自在天（他を変化させて自分は変わらない様子）を表した言葉です。人は不都合を減らしていきたくない、都合の良いことを求めていきたいと願います。不都合が消えるともっと小さな不都合が気になります。自分は変わらないで周りを変えることで思いを貫き通したいと思ってしまうのです。これを私自身の身を省みる目に変えていく。ギャップを埋めるのではなくギャップを感じる私の思いに気づいていくことが大切だと説かれています。

『徳泉寺報』後記

今年も報恩講の時期がやってきます。報恩講の「報恩」って親鸞聖人の恩に報いる（親鸞聖人にお礼をする？）という意味かと思っていたのですが、仏の願いに応える願生彼国の意味だと最近知りました。まだまだわからないことだらけだと実感しながら報恩講をお迎えしたいと思います。